

「子どもの鏡文字って、なぜ起こるの？」

大五京・大五洋では、4歳児クラスから、ひらがなドリルを用いて文字の練習をしていますが、その中には、鏡文字という左右反対のひらがなの文字がチラホラ・・・。

例えば、「て」「つ」「し」など、形の簡単なものほど、逆になっている事がみられます。

文字指導の時には、書き順から指導しているのですが、どうして反対になってしまうのでしょうか。

原因は何か、調べてみたところ、文字を覚えたての子どもの脳は、まだ左脳が未発達なのだそうです。

目から入ってきた情報が右脳でイメージされて左脳で解釈し、それを文字として書くという動きになるのですが、左脳が発達していないと、イメージされた文字をそのまま形にするので、反対の鏡文字になるそうです。

また、上下の判別は早くからできますが、大人でもとっさに間違えてしまうのは、左右ですよね。

子どもは左右の関係性がまだ不慣れで、自分の利き手もはっきりしていない事も原因の一つと言われています。

文字には書き順があって、それは全て「左から右に書く事」という一方通行のルールがあります。

これは、右利きの方が書きやすいルールなので、左利きの子どものにとっては、書きにくい逆さまの動きになってしまうので、もしかすると左利きも原因の一つかもしれません。

子どもの書いている文字を見て、鏡文字があると気になってしまわれると思いますが、発達的には、鏡文字を書く事は、ごく普通の事なので、脳の成熟とともに空間の関係把握の働きが発達し、自然に修正されていきます。

あまりしつこく修正させると、のびのび書けなくなってしまう事もありますので、書く事自体に興味を傾け、楽しくなるように導く方が大切です。

「逆さまになっちゃったね」と声をかけるくらいにして、焦らず成長を見守ってあげてくださいね。